

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成30年度研究開発実施報告書

「人と情報のエコシステム」

研究開発領域

「データポータビリティ時代におけるパーソナル情報のワ
イズ・ユース実現支援プラットフォームに関する研究」

研究代表者 柴崎 亮介
(東京大学空間情報科学研究センター 教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	2
2-3. 会議等の活動	10
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	14
4. 研究開発実施体制	14
5. 研究開発実施者	16
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	18
6-1. シンポジウム等	18
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	18
6-3. 論文発表	19
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	19
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	19
6-6. 知財出願	19

1. 研究開発プロジェクト名

「データポータビリティ時代におけるパーソナル情報のワイズ・ユース実現支援プラットフォームに関する研究」

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 研究開発目標

データポータビリティを通じて、個人がパーソナル情報の集約・流通と利用を自らコントロール可能することで、自然な「名寄せ」が進み、統合的なパーソナル情報が生まれる。それを賢く用いて、産業創出や公共への貢献等、社会全体に利益を還元できるエコシステムの構築を目指す。

統合されたパーソナル情報は従来の断片的な情報に比べ、圧倒的に大きな価値を持っているが、その管理・利用はさまざまなステークホルダーの利害に影響を与える。適切な利用（ワイズ・ユース）の仕組み、それを支えるトラストの仕組みをデザインするために対話のプラットフォームを開発する。また、2018年5月にGDPR（一般データ保護規則）によりデータポータビリティの権利が施行されたが、BeforeとAfterを直接計測できるこの貴重なタイミングを逃すことなく、人々、企業、社会・公共の意識・態度の変容、具体的なアクション等を日本、欧米、中国等で継続的に調査し、インパクトアセスメント、シナリオ分析を通じて対話のガイダンス、政策決定支援等に活用する。

2-2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

	実施項目	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
構築グループ	プラットフォームの開発と運用	プロトタイプ 	CI-PIの可視化に フォーカスした運 用と改良と公開 	CI-PIの利活用支 援に注目した運用 と改良と公開 	運用と改良公開 
	CI-PIの管理や運用・ 利用を支援するエキ スパートのグループ コミュニティの構築 と活動の実施	コミュニティの 立ち上げと調査 結果に基づく活 動ガイドライン の検討 	対話の現場への参加と活動ガイドライン改定 コミュニティの拡大 対話支援ソフトウェア改良への反映 	産業エコシステム を持続的に形成で きる法人をデザイ ン	法人としての活動 を開始 

	CI-PI流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施	コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討	対話の現場への参加と活動ガイドライン改定 コミュニティの拡大 対話支援ソフトウェア改良への反映	法人としての活動を開始	
			制度設計やパフォーマンスモニタリングを持続的に形成できる法人をデザイン		
国際調査分析グループ	DP導入のインパクト調査と影響分析	第1次調査の実施と分析 第1次調査の実施と分析	第2次調査の実施と分析 第2次調査実施と分析	第3次調査の実施と分析	とりまとめ
	CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析	予備調査の実施と結果に基づく分析	対話による態度変容の可能性を考慮したシナリオ分析・影響分析		とりまとめ
	CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析	予備調査の実施と結果に基づく分析	対話による態度変容の可能性を考慮したシナリオ分析・影響分析		とりまとめ

(2) 各実施内容

今年度の到達点①

(目標) CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築のための基盤構築

実施項目①-1

: PDのOpenPF開発と運用

実施内容

: プロトタイピング

パーソナルデータのオープンプラットフォーム開発のためのプロトタイプ
ピングを実施した。初年度は、CI-PIの状況（どこに、どれだけCI-PIが
あるのか）を俯瞰的に把握するためのプロトタイプを構築した。

自身のCI-PIの所在・内容・利用目的を把握するために、既存のプラッ
トフォームに「Consent Receipt」（Kantara Initiative）の生成と取得を
拡張機能として実装した。また、当初の予定に加えて、2019年3月より
「情報銀行」認定スキームに基づく「認定情報銀行」サービス等がスタ
ートすることで、GAFA等の既存のプラットフォームに加え、多様なCI-
PI流通プラットフォームによるCI-PI流通・管理が進むことが予想され
た。そのことから、多様なプラットフォーム間で流通・管理されるCI-PI
の状況を包括・俯瞰的に把握することを可能とするCI-PIダッシュボード
の開発を実施した。



Figure 1 CI-PIワイズ・ユースプラットフォームの開発

CI-PI ダッシュボード（仮）：画面イメージ



Figure 2 CI-PIダッシュボードの画面イメージ

実施項目①-2

：CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

実施内容

：コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討
弁護士、データ利活用専門家等のエキスパートを中心としたコミュニティを立ち上げ、社会システムとしてのCI-PIの管理や運用・利用のあり方をデザインし、関連するステークホルダーを巻き込みながら、コミュニティを拡大するためのワークショップの実施に関して調査した。その結果に基づき次年度以降開催するWSのフレームワークを構築した。

実施項目①-3

：CI-PI流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

実施内容

：コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討
コンサルタント、情報法学者、「情報銀行」や「データ取引市場」の運営者などの専門家等のエキスパートを中心としたコミュニティを立ち上げ、社会システムとしてのCI-PIの流通の仕組みをデザインし、関連するステークホルダーを巻き込みながら、コミュニティを拡大するためのワークショップの実施に関して調査した。その結果に基づき次年度以降開催するWSのフレームワークを構築した。

今年度の到達点②

(目標) GDPR 前後の世界各国の人・企業・公共のシナリオ分析と影響分析における
第1次調査の実施と分析

実施項目②-1

: DP導入のインパクト調査と影響分析

実施内容

: 第1次調査の実施と分析

GDPRをはじめとする諸外国の法制度とその影響について調査を実施し分析を行った。

加えて、GDPRが日本に与える影響について、法的な観点に加えて経済的な観点からも調査・分析を行った。その上で、研究実施者による「情報銀行」認定スキームに関するパブリックコメントおよび関係官庁の審議会およびWG等での議論への参加などを実施した。

とりわけ、「情報信託機能の認定に係る指針ver1.0」における、認定基準の厳格化における本プロジェクトの実施者が寄与する点大きい。

当初の予定においては、モニタリング調査および海外調査を実施する予定であったが、認定「情報銀行」サービスの成立の遅れおよび海外調査先とのスケジュール調整が困難であったことから、前者については、実施時期の延期、後者については、オンラインベースの調査実施に変更した。

実施項目②-2

: CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

実施内容

: 予備調査の実施と結果に基づく分析

諸外国の既存のパーソナル情報の流通・管理プラットフォームの実態について、実態調査およびヒアリングを実施した。

タリン工科大学の研究者と共同で、欧米のパーソナル情報流通プラットフォームを中心に、民間企業とNGOに対して、ヒアリングを実施し、その現状について調査し、各国の産業的構造とそれらがプラットフォームに与える影響について分析した。

実施項目②-3

: CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

実施内容

: 予備調査の実施と結果に基づく分析

CI-PIワイズ・ユースプラットフォームが広く社会に受容され、持続可能な社会的エコシステムとしてトラストを得るために求められるトラスト形成プロセスについて予備調査研究とその結果に基づく分析を実施した。

具体的には、既存の仕組み・フレームワークがトラストを得た経過について検証し、それらの時代的・技術的な背景から本プラットフォームとの関係性について検証し、本プロジェクトにおいて有効となりうるとトラスト形成

のプロセスの仮説を設定した。

(3) 成果

今年度の到達点①

(目標) CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築のための基盤構築

実施項目①-1

: PDのOpenPF開発と運用

成果:

CI-PIプラットフォームの基盤構築のためのプロトタイピングを行った。具体的には、既に開発していたCI-PI流通プラットフォームにConsent Receiptの生成と取得を拡張機能として実装し、CI-PIダッシュボードを実装した。これらの結果により、以下の2点につき、新たな課題と発見が得られた。

- ・多様なプラットフォームにおけるConsent Receiptの普及促進が不可欠であること。
- ・プラットフォーム間のデータフォーマットが統一されていないことによる相互互換性の欠如。

実施項目①-2

: CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

成果

: コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討
弁護士、データ利活用専門家等のエキスパートを中心としたコミュニティの立ち上げを実施した。

その結果、依然として社会的には、CI-PIワイズ・ユースに対する認知が低いこと、また、それらに対する漠然とした不安感や不満が払拭されていないことが明らかになった。

そこで、社会システムとしてのCI-PIの管理や運用・利用のあり方をデザインし、関連するステークホルダーを巻き込みながら、コミュニティを拡大するためのワークショップの実施のためには、実施項目①-3と共同で、より広くCI-PIワイズ・ユースについて議論するためのフレームワークを構築することが有効であるという結論にいたった。

そこで、WSでは、両方のコミュニティにおいて、物理的・時間的・技術的等の多様な要素からなるある特定のケースを仮定することで、未来志向的なアプローチでそれぞれのワイズ・ユースについて議論することとした。

実施項目①-3

: CI-PI流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

成果

：コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討
コンサルタント、情報法学者、「情報銀行」や「データ取引市場」の運営者な
どの専門家等のエキスパートを中心としたコミュニティの立ち上げを実施し
た。

その結果、CI-PIワイズ・ユースプラットフォームが社会システムとして成立
しうるためには、それを受容しうる社会的意識の変容だけではなく、混在する
技術的・制度的課題を包括的に理解した上で、全体としてプラットフォームを
デザインする必要があることが明らかになった。

そこで、社会システムとしてのCI-PIの管理や運用・利用のあり方をデザイン
し、関連するステークホルダーを巻き込みながら、コミュニティを拡大するた
めのワークショップの実施のためには、実施項目①-2と共同で、より広くCI-
PIワイズ・ユースについて議論するためのフレームワークを構築することが
有効であるという結論にいたった。

そこで、WSでは、両方のコミュニティにおいて、物理的・時間的・技術的等
の多様な要素からなるある特定のケースを仮定することで、未来志向的なア
プローチでそれぞれのワイズ・ユースについて議論することとした。

今年度の到達点②

（目標）GDPR 前後の世界各国の人・企業・公共のシナリオ分析と影響分析における
第1次調査の実施と分析

実施項目②-1

：DP導入のインパクト調査と影響分析

成果：

GDPR施行後の世界の情勢について、国際調査を実施し、その影響について
分析した。

その結果、EU域内でも、各国によってGDPRへの対応が異なっていること。
また、その影響については、今後継続して調査が必要であるということが明
らかになった。

GDPRが日本に与える影響について、とりわけ、データポータビリティに
ついては、今後の法改正におけるインパクトについて、継続的に調査分析す
ることとなる。一方で、データポータビリティと認定「情報銀行」の関係に
ついては、あいまいな点が残っていることから、その点について整理と明確
化の必要があると考えられる。

一方、本プロジェクトとしては「情報信託機能の認定に係る指針ver1.0」
における、認定基準の厳格化において本プロジェクトの実施者の働きかけ
により、CI-PIワイズ・ユースプラットフォーム実現に大きく寄与するこ
とが出来た。

実施項目②-2

：CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

成果：：予備調査の実施と結果に基づく分析

諸外国の既存のパーソナル情報の流通・管理プラットフォームの実態について、実態調査およびヒアリングを実施した。

北米におけるパーソナル情報の流通・管理プラットフォームは、GAFGAを中心としたプラットフォームに対抗、もしくは、それらのプラットフォームが連携する動きが生じている。一方で、EU域内では、ドイツにおいては民間企業を中心となったプラットフォーム、フィンランドやエストニアなどは、政府を中心となったプラットフォームが構築されるなど、EU内でも様々なアプローチが取られていることが明らかになった。

今後、GDPRが各国に与えるインパクトにより、それらの政策や産業がどのように変化し、それらが人々にどのような影響を与えるのかを、継続的に調査する必要性が明らかになった。

実施項目②-3

：CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

成果：予備調査の実施と結果に基づく分析

CI-PIワイズ・ユースプラットフォームが広く社会に受容され、持続可能な社会的エコシステムとしてトラストを得るための仮説を設定した。

トラスト形成プロセスについては、CI-PIの得意性について議論するだけでなく、既存の仕組み・フレームワークがトラストを得た経過について検証することの有効性が明らかになった。

一方で、既存の枠組がトラストを得るための経る必要があったプロセスにおいては、CI-PIワイズ・ユースプラットフォームが技術的に解決しうる課題がある一方で、AI等の新たな技術が今後直面する未知の領域の課題が生じることが明らかになった。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

・プロジェクトの目標達成に対しての、現在の進捗状況。当初の予定より進んでいる点、遅れている点。その要因。

実施項目のDP導入のインパクト調査と影響分析の進捗に遅れが生じている。その理由としては、採択当時、認定制度に基づく「情報銀行」が2019年3月からスタートするとされていたため、DP導入のインパクト調査と影響分析の第1次調査のモニタリング調査の実施時期を、認定開始時期に合わせる計画を立てていた。しかし、2019年5月末現在でも、認定情報銀行および情報銀行サービスが存在せず、モニタリング調査の実施時期が遅れている。

また、当初予定していた海外での調査についても、採択後の日程調整が難しく、次年度に繰り越さざるを得なかった。一方で、海外より調査のため来訪する研究者や組織等との連携を図ることが出来たことから、次年度以降の調査については、計画通りに進行が可能であると考えている。

・各実施項目で得られた結果や成果を俯瞰・統合した結果分かったこと（あれば）。

本プロジェクトの取り組みについては、日本国内以上に、GDPR導入後のEU諸国、とりわけ、エストニアやフィンランドといったデジタル化社会が日本よりも進んでいる国からの関心が高く、海外からの訪問やヒアリング等の問い合わせを多く受けている。今後は、国際連携をより意識した研究調査・開発に加えて、海外に向けた情報発信が必要であるということが明らかになった。

・今年度判明した次年度に向けての課題とその解決方法の検討（解決方法の検討は1行程度で記載）（あれば）。

認定「情報銀行」のスキームや「情報銀行」サービスの提供がスタートすることにより、パーソナル情報の流通プラットフォームに関する社会的な認知は進んでいる。その一方、「情報銀行」を謳ったサービス等であっても、本プロジェクトの目指す個人主導のCI-PI流通・管理プラットフォームおよびエコシステムとは異なる理念を持つサービスも存在している。その結果、「情報銀行」を始めとするパーソナル情報の流通・管理に対する、不安や懐疑的な意見も増加している。今後は、“個人をエンパワーする”プラットフォームのあり方について、WSの開催等を通じて広くCI-PIワイズ・ユースプラットフォームに触れる機会を増やすこと、更に、情報発信を積極的に実施していく。

2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
'18/10/2	第1回全体ミーティング	慶應義塾大学 三田キャンパス 研究室棟A 会議室	プロジェクト関係者全体のミーティング 初年度スケジュール及び実施事項整理した。
'18/10/3	第1回国際調査ミーティング	慶應義塾大学 日吉キャンパス 協生館会議室	国際調査チームのミーティング。 CI-PIの流通メカニズムおよびCI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスについて、調査実施事項整理した。
'18/10/17	第2回全体ミーティング	JIPDEC 会議室	プロジェクト関係者全体のミーティング メンバのタスクを整理し、各サブチームの責任者を決定した。
'18/11/6	第2回国際調査ミーティング	ひかり総合法 律事務所	国際調査チームのミーティング。 CI-PIの流通メカニズムおよびCI-

			PIの流通におけるトラスト形成のプロセスについて、議論した。
‘18/11/7	第1回マネジメントチームミーティング	オンライン	マネジメントチームのミーティング。 各チームの実施項目の内容を検討した。
‘18/11/8	第3回国際調査ミーティング	慶應義塾大学 三田キャンパス 東館4階オープンラボ	国際調査チームのミーティング。 CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスについて、議論した。
‘18/11/10	第4回国際調査ミーティング	芝浦某所	国際調査チームのミーティング。 CI-PIの流通メカニズムについて、議論した。
‘18/11/17	第1回開発ミーティング	日本科学未来館	OpenPF開発チームのミーティング 開発内容を検討した。
‘18/11/20	第3回全体ミーティング	オンライン	プロジェクト関係者全体のミーティング CI-PIの流通メカニズムおよびCI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する課題を抽出し、論点を整理した。 PF開発の進捗状況を共有し、と課題を整理した。
‘18/11/28	第1回インパクト調査ミーティング	オンライン	DP導入のインパクト調査と影響分析に関して、調査対象および方法を検討した。
‘18/12/3	第2回マネジメントチームミーティング	オンライン	マネジメントチームのミーティング。 各チームの進捗を確認した。
‘18/12/10	第2回開発ミーティング	慶應義塾大学 日吉キャンパス 6階会議室	OpenPF開発チームのミーティング 開発項目とタスクを整理した。
‘18/12/17	第2回インパクト調査ミーティング	慶應義塾大学 三田キャンパス 研究室棟A 会議室	DP導入のインパクト調査と影響分析に関して、調査対象および方法を検討した。
‘18/12/18	第4回全体ミーティング	JIPDEC 会議室	プロジェクト関係者全体のミーティング CI-PIの流通メカニズムおよびCI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する実施事項を検討し、PF開発の進捗状況を共有し

			た。
‘18/12/25	第1回グループコミュニティ構築ミーティング	ビジネスエアポート東京会議室	グループコミュニティの構築チーム コミュニティ構築のためのWS実施に関して議論した。
‘18/12/28	第3回インパクト調査ミーティング	株式会社インテージ会議室	DP導入のインパクト調査と影響分析に関して、調査内容の検討。
‘19/1/8	第3回マネジメントチームミーティング	オンライン	マネジメントチームのミーティング。 各チームの進捗を確認した。
‘19/1/8	第4回インパクト調査ミーティング	株式会社インテージ会議室	DP導入のインパクト調査と影響分析に関して、調査内容の検討。
‘19/1/9	橋田プロジェクトとの第1回共同研究会	慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟B会議室	橋田プロジェクトと本プロジェクトの共同研究会として、本プロジェクトの実行者 板倉弁護士を中心に、GDPRにおけるデータポータビリティと「情報銀行」の関係および課題について議論した。
‘19/1/16	第2回グループコミュニティ構築ミーティング	Future Sessions	グループコミュニティの構築チーム 第1回WS内容を検討した。
‘19/1/22	第5回全体ミーティング	慶應義塾大学三田キャンパス東館8階ホール	プロジェクト関係者全体のミーティング CI-PIの流通メカニズムおよびCI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する、実施事項を検討し、PF開発の進捗状況を共有した。
‘19/1/29	第4回マネジメントチームミーティング	オンライン	マネジメントチームのミーティング。 各チームの進捗を確認した。
‘19/2/4	第1回WS	Future Sessions	「CI-PI WISE-USEの可能性」に関するワークショップを開催。 課題整理と情報共有した。
‘19/2/13	第6回全体ミーティング	JIPDEC 会議室	プロジェクト関係者全体のミーティング PF開発状況の報告とフィードバックおよび次年度以降の開発内容について議論した。

‘19/2/19	第3回グループコミュニティ構築ミーティング	京王線渋谷駅 エクセルシオールカフェ	グループコミュニティの構築チーム 第1回WSの総括と第2回WS内容を検討した。
‘19/2/25	第5回マネジメントチームミーティング	Future Sessions	マネジメントチームのミーティング。 各チームの進捗を確認した。
‘19/2/25	第2回WS	Future Sessions	「CI-PI WISE-USEの可能性」について、ワークショップを開催。 ‘未来志向で考える’ことをテーマに議論した。
‘19/2/25	第3回開発ミーティング	渋谷駅周辺カフェ	OpenPF開発チームのミーティング 開発進捗を確認した。
‘19/3/7	第4回開発ミーティング	JIPDEC	OpenPF開発チームのミーティング 個人情報の同意に関する可視化技術に関するヒアリングを実施した。
‘19/3/11	第4回グループコミュニティ構築ミーティング	株式会社大広	グループコミュニティの構築チーム 第2回WSの総括と第3回WS内容を検討した。
‘19/3/12	第6回マネジメントチームミーティング	Future Sessions	次年度研究計画書の内容を確定し、計画書を作成した。
‘19/3/14	第3回WS	慶應義塾大学 三田キャンパス 研究室棟B 会議室	「CI-PI WISE-USEの可能性」について、ワークショップを開催。 今後のビジョンの共創と中領域探索のための、フレームワークを構築した。
‘19/3/29	第7回全体ミーティング	JIPDEC 会議室	プロジェクト関係者全体のミーティング 次年度計画に関する情報共有とタスクを整理した。

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

本プロジェクトでは、CI-PIワイズ・ユースプラットフォームを開発し、GoogleやFacebook等の既存のサービスからデータポータビリティの機能を用いて、自らのCI-PIをダウンロードし、本プラットフォームにアップロードすることで、最終的には自らCI-PIを流通・管理可能とする。加えて、CI-PIダッシュボードを通じて、多様なプラットフォーム上での、自分のCI-PIの状況を俯瞰的に可視化するものとする。また、開発したプラットフォームは、オープンソースとして広く公開する。

また、本プロジェクトでは、ただ、開発したシステムを公開し、提供することを目指すものではない。WSやWGの開催などを通じて、本プラットフォームに触れ、自分のCI-PIのワイズ・ユースケースについて、多様な視点から思考する場を提供し、その中で、さらなるCI-PIのワイズ・ユースを検討し生み出すことを可能とする持続可能なコミュニティを構築する。コミュニティが熟成することで、個人・企業・公共の対話が可能となり、持続可能かつ個人主導のCI-PIの流通エコシステムが成立する。

4. 研究開発実施体制

(1) CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築グループ

①柴崎亮介（東京大学空間情報科学研究センター、教授）

②実施項目

a) PDのOpenPF開発と運用

グループの役割の説明

：プロトタイピングの実施

b) CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

グループの役割の説明

：コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討

c) CI-PI流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

グループの役割の説明

：コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討

(2) 国際調査分析グループ

①砂原秀樹（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、教授）

②実施項目

a) DP導入のインパクト調査と影響分析

グループの役割の説明

：第1次調査の実施と分析

b) CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

グループの役割の説明

: 予備調査の実施と調査結果に基づく分析

c) CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

グループの役割の説明

: 予備調査の実施と調査結果に基づく分析

5. 研究開発実施者

CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
柴崎 亮介	シバサキ リョウスケ	東京大学	空間情報科学研究センター	教授
砂原 秀樹	スナハラ ヒデキ	慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科	教授
神武 直彦	コウタケ ナオヒコ	慶應義塾大学大学院	システムデザイン マネジメント研究科	教授
辻 邦浩	ツジ クニヒロ	ナレッジキャピタル		シニアディレクター
庄司 昌彦	ショウジ マサヒコ	武蔵大学	社会学部	教授
金杉 洋	カナスギ ヒロシ	東京大学	空間情報科学研究センター	特任研究員
松原 剛	マツバラ ゴウ	東京大学	地球観測データ統融合連携研究機構	特任研究員
山内 正人	ヤマノウチ マサト	慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科	特任講師
林 達也	ハヤシ タツヤ	慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科付属メディアデザイン研究所	リサーチャー
石井 美穂	イシイミホ	慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科付属メディアデザイン研究所	リサーチャー
崎村 夏彦	サキムラ ナツヒコ			
坂下 哲也	サカシタ テツヤ	JIPDEC		常務理事
クロサカ タツヤ	クロサカ タツヤ	慶應義塾大学大学院	政策メディア研究科	特任准教授
生貝 直人	イケガイ ナオト	東洋大学	経済学部総合政策学科	准教授

板倉 陽一郎	イタクラ ヨウ イチロウ	ひかり総合法律 事務所 理化学研究所 国立情報学研究 所	革新知能統合 研究センター	弁護士 客員主管研 究員 客員教授
伊藤 直之	イトウ ナオユ キ	株式会社インテ ーჯ	開発本部	エバンジェ リスト

国際調査分析グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
砂原 秀樹	スナハラ ヒデキ	慶應義塾大学 大学院	メディアデザ イン研究科	教授
柴崎 亮介	シバサキ リョウ スケ	東京大学	空間情報科学 研究センター	教授
金杉 洋	カナスギ ヒロシ	東京大学	空間情報科学 研究センター	特任研究員
石井 美穂	イシイミホ	慶應義塾大学 大学院	メディアデザ イン研究科付 属メディアデ ザイン研究所	リサーチャ ー
生貝 直人	イケガイ ナオト	東洋大学	経済学部総合 政策学科	准教授
崎村 夏彦	サキムラ ナツヒ コ			
坂下 哲也	サカシタ テツヤ	JIPDEC		常務理事
クロサカ タツヤ	クロサカ タツヤ	慶應義塾大学 大学院	政策メディア 研究科	特任准教授
林 達也	ハヤシ タツヤ	慶應義塾大学 大学院	メディアデザ イン研究科付 属メディアデ ザイン研究所	リサーチャ ー
庄司 昌彦	ショウジ マサヒ コ	武蔵大学	社会学部	教授
伊藤 直之	イトウ ナオユキ	株式会社イン テーჯ	開発本部	エバンジェ リスト
安藤 千歳	アンドウ チトセ	慶應義塾大学	日吉学術研究 支援課	嘱託職員

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
'19/2/8	シンポジウム (インフォメーションバン クコンソーシアムとの 共催)	東京大学 生産技術研 究所コンベン ションホ ール	200名	「情報銀行」実現に向けた議 論と活動の総括、その課題を 整理した上で、今年度は「情 報銀行」にとどまらず、これ からの情報社会におけるパー ソナル情報の流通と活用につ いて議論しました。 また、RISTEXの本プロジェ クトの概要に加え、特に密な 連携をすることとなった橋田 プロジェクト及び庄司プロジ ェクトについても紹介しまし た。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

- ・特別鼎談「パーソナルデータ社会を読み解く」、柴崎亮介・橋田浩一・国領二郎、
JST社会技術研究開発センター「人と情報のエコシステム」研究開発領域事務局、
2019年3月

(2) ウェブメディアの開設・運営

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・G空間Expoベンダーフォーラム 講演、「情報銀行」石井美穂、2018年11月15日、日本科学未来館
- ・RISTEX合宿、「デジタル社会におけるトラスト」崎村夏彦、2019年1月12日、セミナーハウスフォーリッジ
- ・RISTEX合宿、「近代西洋個人主義の未来—データポータビリティの果たす役割—」生貝直人、2019年1月12日、セミナーハウスフォーリッジ
- ・RISTEXシンポジウム、「理性から情動へ～AI&データ時代、選択を委ねる人間たち」パネルディスカッション登壇 柴崎亮介、2019年3月12日、国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール
- ・KMD Forum 2018、ネットワークメディアプロジェクトブース内での展示「情報銀行—個人情報自己管理を支援するシステム—」、2019年11月2日—3日、

慶應義塾大学日吉キャンパス協生館

- ・G空間Expo展示、インフォメーションバンクコンソーシアムブース内での展示「情報銀行—個人情報—の自己管理を支援するシステム—」、2018年11月15日—17日、日本科学未来館)

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0 件)

●国内誌 (0 件)

なし

●国際誌 (0 件)

なし

(2) 査読なし (0 件)

なし

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

なし

(2) 口頭発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

なし

(3) ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

なし

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (0 件)

なし

(2) 受賞 (0 件)

なし

(3) その他 (0 件)

なし

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)

なし

(2) 海外出願 (0 件)

なし